三条市
校務DX計画

令和７年３月31日

１．校務DX計画

	現状分析・課題	解決策・想定スケジュール				
		令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度
学校における業務のデジタル化	「保護者との欠席・遅刻・早退連絡を完全デジタル化している」学校は８割超である。一方、「児童生徒への各種連絡」のクラウドサービスを全く利用していない学校は６割程度である。	デジタル化の事例収集、活用方法検討	活用方法の情報発信			
学校設置者における業務のデジタル化	「教職員が校務用の端末を校外においてクラウドベースで利用できる環境」を整えていない。	校務事務の在り方検討WG	新ワークフローで運用（市町村）			
				県の新システムの導入に併せて新ワークフローで運用		
次世代の校務デジタル化に向けた環境整備	ネットワーク統合と汎用のクラウドツールの活用を前提とした、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムの具体的な導入時期を設定している。	市町村システムとの統合を含めた県の新システム検討・設計	県の共通基盤を利用する新システム導入・運用			
生成AIの校務での活用	一部の教職員（半分未満）が校務に生成AIを校務で活用している学校の割合は、１割程度である。	生成AIについての事例収集、活用方法検討	活用方法の情報発信 ※国のパイロット校事業の実証結果等を含む			
クラウド環境を活用した校務DXの推進	「職員会議等の検討事項をクラウドで事前に共有し、意見を求めている」割合が半分以上の学校は２割程度である。また、教職員が校務用の端末を校外においてクラウドベースで使用できる環境は整えていない。	次期ネットワークの在り方設計・設計	ネットワークの最適化・運用			
		次期ネットワーク構成に合わせた教員用端末の検討	次期教員用端末の配置・運用			
Fax・押印の原則廃止、ペーパーレス化、不必要な手入力作業の一掃	「Faxを使用していない」「保護者・外部とのやりとりで押印・署名がない」学校はともに１割未満である。職員会議等の資料の完全ペーパーレス化を実施している学校が２割程度である。	事例収集と解決策の検討	活用方法の情報発信			

２．期待される効果

校務で利用する各種システムの活用により校務の効率化が進み、教育データを活用した児童生徒への指導や支援が充実する。
①統合型校務支援システムなど、校務で利用する各種システムの事務により名簿入力の重複が解消されるなど、校務が効率化され、教員の校務事務の最適化につながる。
②教員は、校務データや学習データ等の効率的・効果的な活用により、個々の児童生徒にきめ細かな指導や支援を行うことができる。